

解答例

一

ア つど イ 真剣 ウ 腐心 エ 適否 オ 証左 カ 生計

問一

ほんとうに大切なことに対しても意識を集中し、そうでないことについては過去の習慣に委ねて、深く考えないようにすることができるというメリット。(70字)

問二

他者との間で成り立つ約束ことは、何が適切な選択で、何が不適切な選択なのかを判断する自由が実質的に成立するための前提だから。(61字)

問三

他者に対して私が自由であるためには、私の振る舞いが他者にとって何らかの不確定性をもつていなければならぬが、その条件が成立しないから。(67字)

問四

誰もが自由である以上、自分が選択した結果は他者の意思にも依存するので、必ずしも思い通りにはならないといふこと。(55字)

二

問一

リベラル派がポリティカル・コレクトネスを理念上の正しさとして推進しているのに対しても、保守層はそれを不寛容な強要と見なして密かに反発しているという対立。(75字)

問二

市民それぞれが支配権力について、反対意見にも耳を傾けながら、明晰な論理に基づき批判的な意見を交わすことで合意形成を目指すという正しさ。(67字)

問三

正しさの判定が市場の客觀性に委ねられる資本主義社会では、各人は自分の仕事に没頭し、自分の利益に直接つながらない公共的な事柄を考えるのに十分な時間を割けなくなつたので、自分の嗜好に応じてメディアを選択し、自分が共感する候補者を直感的に選択するようになったといふこと。(132字)

問四

ハーバーマスがいうような「公共性」は市民的な議論に基づくものだとされるが、そもそも市民的な議論は熟議を妨げる資本主義社会を成立させるものだったので、そのような公共性はいまだかつて存在したことはなかつたといふ批判。(106字)